

マルチメディア応用専門委員会

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

マルチメディア応用専門委員会

1/3

企画戦略委員

相川 慎一郎(富士通)

登録委員数

35委員(14会員)

委員長・副委員長/
リーダー・サブリーダー

委員長:山本秀樹(OKI)、副委員長:芹沢昌宏(NEC)

担当するSG・WP等

ITU-T SG21

活動の目的・意義
・めざすゴール

- ITU-T SG21で扱っているマルチメディアやデジタルサービスに関するテーマについて標準化を行う委員会。ITU-T SG21会合の対処方針や提出寄書の審議をこの委員会で行う。審議対象には、TTC内に対応するSWGや専門委員会の無いSG21の課題やSG21全体に関するものも含む。現状、電子情報健康管理SWG、アクセシビリティSWG、ILE-SWG、マシンビジョン-SWGの4つのSWGから構成される。
- SG21の課題にとらわれず、TTCの会員様からの新しいニーズで上記にマッチしそうなものは積極的に新SWGやアドホックを作り標準化推進の間口を広げる。SG21の既存課題にマッチしていなければ新課題の提案につなげる(例:メタバース標準化、フィジカルAIのマルチメディア側面)。
- 標準の提案は、ITU-Tに限らず、TTCの国内標準やASTAP(Asia Pacific Telecommunity Standardization Program)を含む。
- SG21の課題のうち、旧SG9(ケーブルテレビ関連)の課題は対象外(Q14~Q22)



マルチメディア 応用専門委員会

電子情報健康管理SWG

アクセシビリティSWG

ILE-SWG (超高臨場感
ライブ体験)

マシンビジョンSWG

AI活用(専)

コネクテッドカー(専)

セキュリティ(専)

メタバース標準化推進連絡会
(業際)

高精細映像データ医療応用
研究会(業際)

BHQ:ブレインヘルスケア指数
(業際)

健康医療IoT(業際)

ITU-T SG21

Q2

Q1

Q8, 9, 13

Q7, 5

Q3,4,6,10,11,
12

Q14~22
(対象外)



ASTAP
EG MA等

- 既存のSWGに関連するテーマは、各SWGのページに記載。
- SG21の以下の課題(a)~(d)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG21への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。
(a) 課題5 AIによるマルチメディアアプリケーション(AI活用専門委)
(b) 課題12 分散電子台帳技術とeサービス(セキュリティ専門委)
(c) 課題10 車載マルチメディア通信、システム、ネットワーク及びアプリケーション
(コネクテッドカー専門委)
(d) 課題9 超臨場感通信・xR(業際WP メタバース標準化推進連絡会)
- 議論が進む車載マルチメディアや自動運転支援、新規提案のメタバース等に対する国内の情報共有、対処検討を迅速に進めること。

関連のSDGsゴール



標準化方針

各SWGのページに記載

国内外の標準化団体等の
動向

各SWGのページに記載

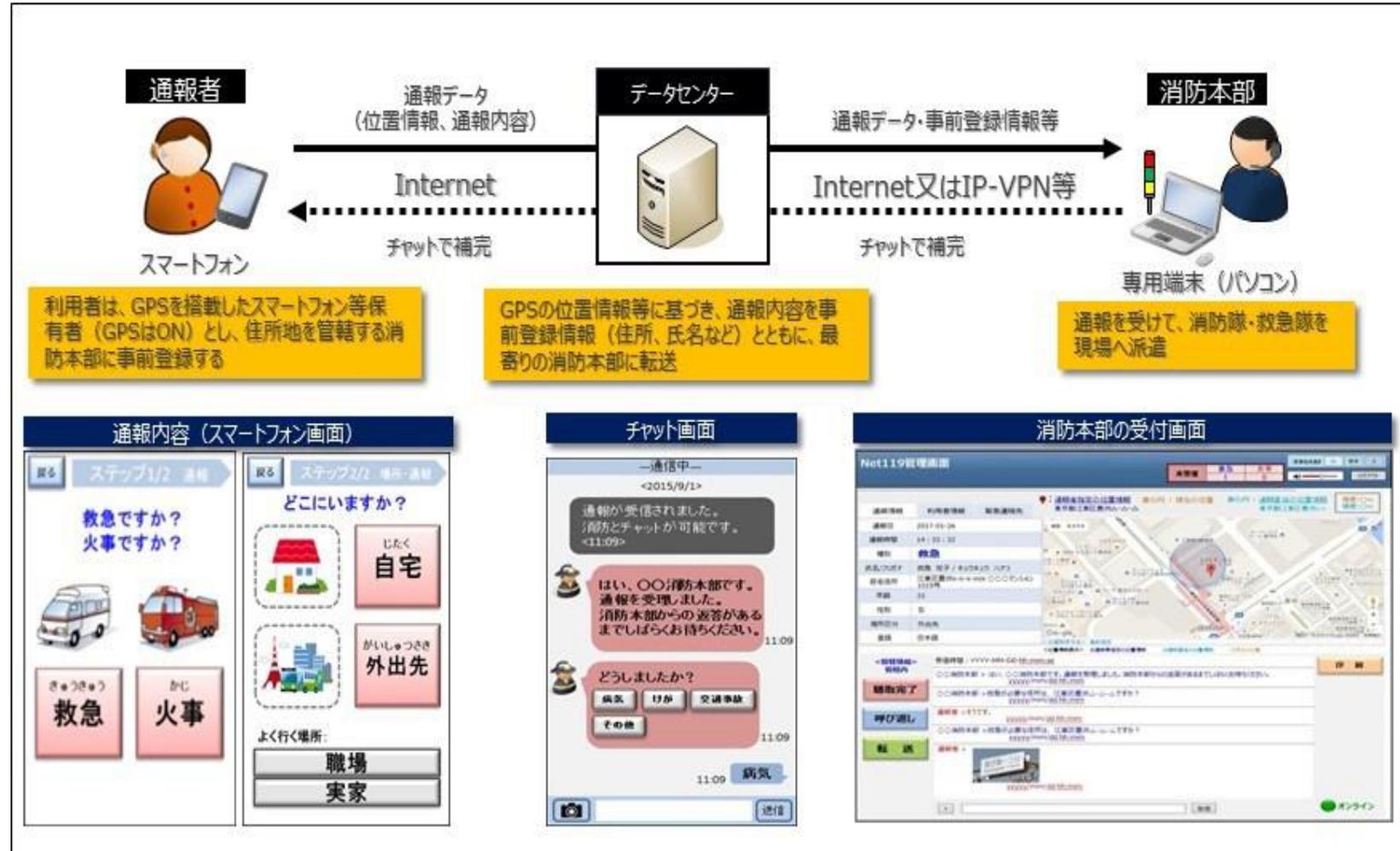
凡例

→ 寄書審議、対処方針審議、会合結果共有等

<p>新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み</p>	<p>国内の民間団体の検討結果等に基づき日本企業の海外展開に向けた標準獲得のため、ILE、アクセシビリティ、電子情報健康管理、マシンビジョンに関する国際標準化団体アップストリーム23件(ITU-T寄書19件、ASTAP寄書4件)を実施。国際標準化動向の情報提供のために、国内向けに、セミナー3件を実施。</p>			
<p>関連する専門委員会または外部組織とその内容</p>	<p>SG21の以下の課題(a)～(d)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG21への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。 (a) 課題5 (Q5) AIによるマルチメディアアプリケーション(AI活用) (b) 課題12 (Q12) 分散電子台帳技術とeサービス(セキュリティ) (c) 課題10 (Q10) ITS (コネクテッドカー) (d) 課題9 (Q9) 超臨場感通信・xR (業際WP メタバース標準化推進連絡会)</p>			
<p>主な活動項目</p>	<p>概況指標</p>	<p>2025年度目標(当初計画時)</p>	<p>2025年度実施状況</p>	<p>記事</p>
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	<p>寄書数</p>	<p>10件程度</p>	<p>19件(SG21)</p>	
	<p>外部会合への参加・連携状況</p>	<p>ITU-T SG21会合:10月6～17日@ジュネーブ ASTAP37:4月ごろ (詳細未定)</p>	<p>ASTAP37:4月参加 ITU-T SG21会合:10月参加 ITU-T SG21 WP2,4会合:7月参加</p>	
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	<p>JJ標準</p>	<p>各SWGで設定</p>	<p>該当なし</p>	
	<p>TS/TR/SR</p>	<p>各SWGで設定</p>	<p>該当なし</p>	
<p>③ ダウンストリーム</p>	<p>数</p>	<p>各SWGで設定</p>	<p>該当なし</p>	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	<p>セミナー</p>	<p>各SWGで設定</p>	<p>3件(共催含) ・(7月)電子情報健康管理SWG ・(7月)アクセシビリティSWG ・(11月)電子情報健康管理SWG</p>	
	<p>記事投稿、講演会</p>	<p>適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCレポートに寄稿する。</p>	<p>TTCレポート冬号:SG21会合報告</p>	

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 国内の民間団体の検討結果等に基づき日本企業の海外展開に向けた標準獲得のため、各SWGに関する国際標準化団体アップストリームを推進。 国際標準化動向の国内向け情報を提供(セミナー、ダウンストリーム標準の展開) 			
新テーマ	<ul style="list-style-type: none"> SG21下に「フィジカルAIのマルチメディア側面(仮称)」のフォーカスグループ設立の動きがある。動向を把握し適宜対応する。 			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	<p>SG21の以下の課題(a)(b)(c)は関連するTTCのグループとの連携を深め、SG16への寄書の国内寄書審議の取りまとめは本委員会で行う。以下では、TTCグループ名を括弧の中に記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> (a) 課題5 (Q5) AIによるマルチメディアアプリケーション(AI活用) (b) 課題12 (Q12) 分散電子台帳技術とeサービス(セキュリティ) (c) 課題10 (Q10) ITS (コネクテッドカー) (d) 課題9 (Q9) 超臨場感通信・xR (業際WP メタバース標準化推進連絡会) <p>※SG21の本会合前には旧SG9:CATV協会(技協)と寄書情報/対処方針を相互チェック/情報共有(総務省方針)</p>			
主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:7月@ジュネーブ ASTAP-38:4月(バンコク)		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	各SWGで設定	-	
	TS/TR/SR	各SWGで設定	-	
③ ダウンストリーム	数	各SWGで設定	-	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	各SWGで設定		
	記事投稿、講演会	適宜SG会合の結果報告、ドキュメント作成、ダウンストリームの概要をTTCLレポートに寄稿する。		

Net119のシステム構成例



新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	Net119のサービス普及を側面からサポート(相互接続試験の場所提供など) ITU-T SG21のアクセシビリティに関する寄書調査、問題提起			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2025年度目標(当初計画時)	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	0	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:10月	ITU-T SG21会合:10月 ITU-T WP1/21, WP2/21, WP4/21:3月(予定)	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS:1回 TR:0回	TS制定:0 TR制定:0	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する	TTCオンラインセミナー「マルチメディアのアクセシビリティに関する 最新標準技術動向2025」開催(7/25)	
	記事投稿、講演会			

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	Net119 のサービス普及を側面からサポート(相互接続試験の場所提供など) 特にアクセシビリティの社会課題解決に向けた ITU-T SG21 のアクセシビリティに関する寄書調査、問題提起など			
新テーマ				
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:7月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS:1回 TR:0回	TS制定: TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	(未定) その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート		

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

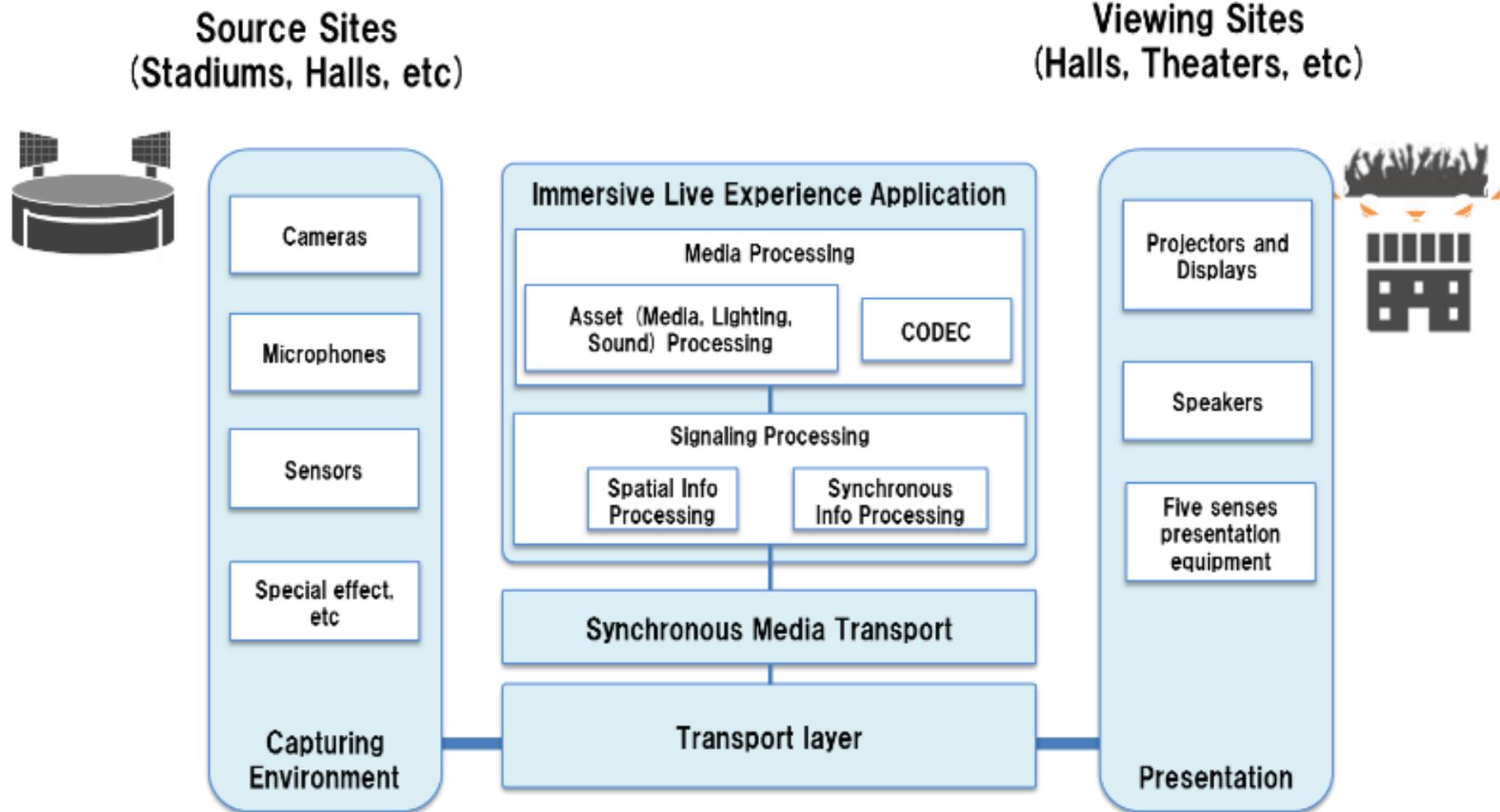
ILE-SWG

1/3

企画戦略委員	相川 慎一郎(富士通)	登録委員数	18委員(8会員)
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー	リーダー:長尾 慈郎(NTT)	担当するSG・WP等	ITU-T SG21 Q8, 9, 13
活動の目的・意義 ・めざすゴール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超高臨場感ライブ体験(ILE)技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を検討する。 ・ 日本のIPTVサービスで採用されている方式を基にした国際標準への反映を目的として、IPTV(IP放送、映像配信、VOD)に関するITU-T SG21関連の標準化活動を実施する。また、国際標準との整合性を確認、確保すべく、IPTVに関わる国内外活動(ASTAP、IPTVフォーラム、DSC、W3C等)の情報収集も行う。 ・ メタバース標準化推進連絡会とも連携し、メタバースの国際標準化を検討する 		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総務省および国内仕様団体と連携・協調した国際標準化 ・ 国内仕様化団体との整合性を重視し、ILE、IPTVおよびデジタルサイネージに関して相互接続や技術・サービスの普及に必要となる勧告についてITU-Tへアップ/ダウンストリーム 		
関連のSDGsゴール			
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他団体との標準化連携を進める。 ・ ILEに関する国際標準の必要性を啓蒙し、IPTV及びデジタルサイネージに関するサービス市場の安定的成長と、会員それぞれの国内外におけるビジネス拡大に寄与するため、国内仕様とITU-Tを中心とした国際標準化の整合性を確保するとともに、先駆的サービス実現の観点からITU-Tでの勧告化に貢献する。 ・ 国内のコンセンサスの場としての活動を維持強化する。国内ビジネスの展開に役立つ「ダウンストリームすべき勧告」について検討する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ITU-Tにおける勧告体系の観点から、必要な勧告案に対するコンセンサスの連携強化と実効性のあるアップストリーム活動 2. 国内既存サービスとの整合性確保と新サービス対応 3. ビジネス展開に資するダウンストリーム 		
国内外の標準化団体等の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・ MPEG、DVB、W3Cで符号化やVR/AR向けデバイスAPIの標準化等。 ・ ISOで触覚に関する標準化。DSCにて、デジタルサイネージに関する各種ガイドラインを整備。 ・ 人間拡張コンソーシアムにおいて低遅延で感覚を伝送し臨場感ある体験の実現を検討。 ・ IPTVフォーラムにおいて、IPTVの4K8K対応について規格化。 		

次ページ参照

超高臨場ライブ体験フレームワーク



<p>新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続、国内外への普及の観点から必要に応じて勧告を日本主導で整備 ・ メンバ間でのILEやメタバースに関する相互理解を深めるため、メタバースを含むイマーシブサービスの事例紹介等をSWGで実施 ・ セミナー開催による普及促進や、連携強化のための合同会合の開催等を検討 ・ 情報規格調査会、IPTVフォーラム及びDSCとの連携を継続 ・ 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討
---------------------------------------	---

関連する専門委員会または外部組織とその内容

主な活動項目	概況指標	2025年度目標(当初計画時)	2025年度実施状況	記事
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:1月 - 8件 ITU-T SG21会合:10月(仮) - 5件 ITU-T TSAG会合:5月 - 0件 ASTAP:----- 0件	ITU-T SG21会合:1月 - 7件 ITU-T Q8/21中間会合:6月 - 9件 ITU-T SG21会合:10月 - 7件 ITU-T Q8,Q13,WP4/21中間会合:3月 - 5件(予想)	
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート</p>	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
<p>③ ダウンストリーム</p>	数	TS: 1回 TR: 0回	TS制定 TR制定:	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する		
	記事投稿、講演会			

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> • 会員企業のビジネスメリットのある国際標準化を推進することとし、新サービスやグローバル展開に向けたアップストリーム活動を継続、国内外への普及の観点から必要に応じて勧告を日本主導で整備 • メンバ間でのILEやメタバースに関する相互理解を深めるため、メタバースを含むイマーシブサービスの事例紹介等をSWGで実施 • セミナー開催による普及促進や、連携強化のための合同会合の開催等を検討 • 会員企業の要望に応じてビジネス展開に資するダウンストリームを継続検討
-----------------------------	--

新テーマ	(Blank)
------	---------

関連する専門委員会または外部組織とその内容	<ul style="list-style-type: none"> • 情報規格調査会、IPTVフォーラム及びDSCとの連携を継続
-----------------------	---

主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	10件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:7月(仮) - 5件 ITU-T Q13/21中間会合:11月 - 1件 ITU-T Q8/21、WP4/21中間会合:12月 - 5件		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS: 1回 TR: 0回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	<ul style="list-style-type: none"> • 日本から提案してきたILE関連の勧告(FT、AR、3DIT)が完成予定であり、そのプロモーションを兼ねたセミナーなどの計画を検討する • その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する 		
	記事投稿、講演会			

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名	マシンビジョンSWG	1/3
-----------	------------	-----

企画戦略委員	相川 慎一郎(富士通)
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー	木浦 幸雄(JIIA)
活動の目的・意義 ・めざすゴール	<ul style="list-style-type: none"> 画像/ビデオによる視覚検査と欠陥検出、位置調整と測定、製品の識別・分類・追跡などを行うマシンビジョン(Machine vision) 技術をグローバルに啓蒙、普及することを目的として、国際標準化を推進する
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 現在JIIAからの登録委員は2名、陪席で5名で対応中。下記中期展望を見据えた活動を推進するためには、引き続きリソースの拡充が必要。 特に (1)MVを扱う課題が分散している(Q5,7,9/SG21)ため、追従等に時間がかかる (2)新規作業項目提案の経験が不足している(対応できる委員の不足)
関連のSDGsゴール	
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> マシンビジョンに関する国際標準の必要性を啓蒙すべく寄書提案などを行い、作業項目や勧告草案の充実を図る。 具体的には、マシンビジョン工業規格「OPC-Machin Vision companion specification」と「GenICam」を始めとした業界規格を網羅した勧告案を随時提案する。その為の各規格のChairとの協議をより一層高めていく。 マシンビジョンに関するフレームワークを定義・確定し、インターフェースを含めた技術仕様の勧告化を目指す。
国内外の標準化団体等の動向	<p>JIIAは、アライアンスを締結しているA3(北米)、EMVA(欧州)、VDMA(ドイツ)、CMVU(中国)などの国際的なマシンビジョン業界団体と連携しているが、その中で新たにMachine vision consortiumとしてITU-Tでの活動を強化、推進していく。各団体で新しい技術の標準化活動を実施しており、海外各団体の活動状況は活発であり、アライアンスとして国際技術会議、及びマネージメントレベルの会議を各2回/年を実施して、JIIAの構想のITUでの連携について、既に賛同を得ており、具体的な活動計画を策定、実行していく。</p>

登録委員数	9委員(3会員)
担当するSG・WP等	ITU-T SG21 Q5,7

図1 ITU-TでのMV標準化活動計画

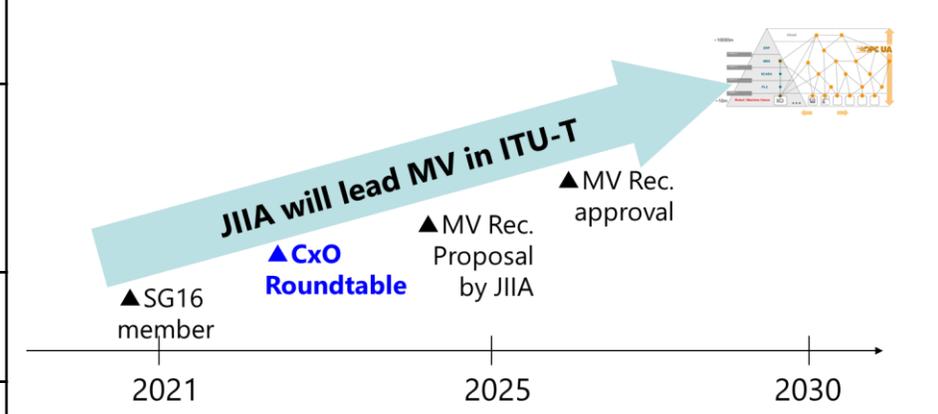


図2 MV業界団体のConsortiumとITU-Tとの関係



<p>新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-T SG21 Q5,Q7の主にマシンビジョンに関する寄書調査、問題提起 ・JIIAからのDigital Twinに関連する寄書提案、及びMachine vision consortiumの標準化活動の強化、推進 ・国際標準化動向の情報提供のための国内向けセミナー 			
<p>関連する専門委員会または外部組織とその内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会(JIIA) 			
<p>主な活動項目</p>	<p>概況指標</p>	<p>2025年度目標(当初計画時)</p>	<p>2025年度実施状況</p>	<p>記事</p>
<p>① アップストリーム 他団体との連携</p>	<p>寄書数</p>	<p>2件</p>	<p>25年1月 Digital Twinに関連する修正提案 25年11月 Machine vision(H.IMV-FRM)</p>	
	<p>外部会合への参加・連携状況</p>	<p>参加:ITU-T SG21会合 25年1月本会合参加(24年度) 25年10月本会合参加 ITU-T SG21 Q5/Q7 RGM会合 連携:JIIA、G3、Machine vision consortiumとの連携</p>	<p>参加:ITU-T SG21会合 25年1月 -ジュネーブ 参加2名、リモート3名 ITU-T SG21本会合 25年10月 -ジュネーブ 参加2名、リモート4名 その他RGM会合 - Q5/Q7/SG21 25年8月 リモート2名 連携:JIIA、G3、Machine vision consortium ①上記の各ITU会合前に寄書のレビューをリモートで実施 ②国際標準化会議(IVSM) 25年4月(カナダ) 25年10月(中国)</p>	
<p>② ドキュメント作成 国内標準 仕様書レポート</p>	<p>JJ標準</p>	<p>0件</p>	<p>0件</p>	
	<p>TS/TR/SR</p>	<p>0件/0件/0件</p>	<p>0件/0件/0件</p>	
<p>③ ダウンストリーム</p>	<p>数</p>	<p>TS:0回 TR:0回</p>	<p>TS制定:0回 TR制定:0回</p>	
<p>④ プロモーション 普及推進</p>	<p>セミナー</p>	<p>2件:25年6月 画像センシング展セミナー 25年12月 国際画像機器展セミナー</p>	<p>2件:25年6月 画像センシング展セミナーを実施 25年12月 国際画像機器展セミナーを実施</p>	
	<p>記事投稿、講演会</p>	<p>4件: 25年6月 画像センシング展パネル展示 25年4月 マシンビジョン標準化国際会議 (IVSM)カナダ 25年10月 同上(中国) 25年12月 国際画像機器展パネル展示</p>	<p>4件: 25年6月 画像センシング展パネル展示を実施 25年4月 マシンビジョン標準化国際会議 (IVSM)カナダを実施 25年10月 同上(中国)を実施 25年12月 国際画像機器展パネル展示を実施</p>	

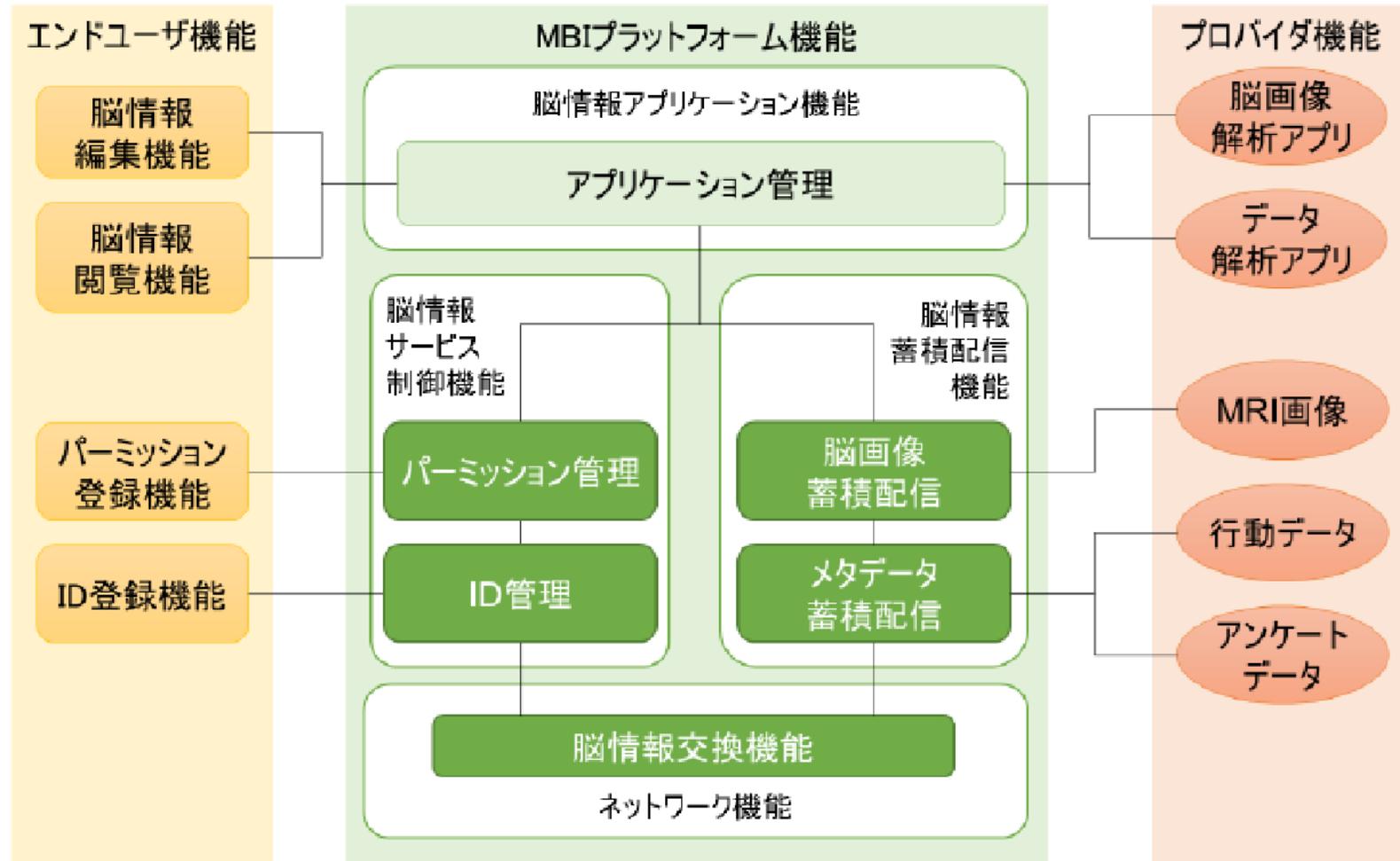
重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-T SG21 Q5,Q7、Q9の主にマシンビジョンに関する寄書調査、問題提起 ・JIIAからのMachine visionのWork item(H.IMV-FRM)のブラッシュアップ⇒本会合での議論・承認に向けた活動 ・標準化活動の強化、推進 ・国際標準化動向の情報提供のための国内向けセミナー 			
新テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ITU-T SG21 Q7のWork item(H.IMV-FRM)のConcentにに向けた活動 			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般社団法人 日本インダストリアルイメージング協会(JIIA) 			
主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件		
	外部会合への参加・連携状況	参加:ITU-T SG21会合 26年7月本会合参加 ITU-T SG21 Q5/Q7 RGM会合 連携:JIIA、A3、EMVA、VDMAとの連携		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS:0回 TR:0回	TS制定:0回 TR制定:0回	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	3件:26年6月 画像センシング展セミナー 26年10月 Vision2026セミナー(ドイツ) 26年12月 国際画像機器展セミナー		
	記事投稿、講演会	4件: 26年6月 画像センシング展パネル展示 26年4月 マシンビジョン標準化国際会議 (IVSM)チェコ 26年10月 同上(北米) 26年12月 国際画像機器展パネル展示		

中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名 電子情報健康管理SWG 1/3

企画戦略委員	相川 慎一郎(富士通)	登録委員数	8委員(1会員)
委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー	リーダー:川森雅仁(東京大学)	担当するSG・WP等	ITU-T SG21 Q2
活動の目的・意義 ・めざすゴール	持続可能な社会の発展のために健康の増進や高齢化への対応は、最重要な要素のひとつである。そのためにICT技術の利活用は不可欠になりつつあり、相互運用性、社会での普及という観点からe-healthの標準化は、大きな意義を持っている。本SWGは、以上の背景から、最新のマルチメディアICT技術を用いた遠隔医療やICT健康保健の作業項目の標準化を行う。		
活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)	国内での活動の活発化。標準化活動結果の国内での宣伝	次ページ参照	
関連のSDGsゴール	   		
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> ・H.870のコンフォーマンステストのアップストリーム ・H.870の国内仕様の精緻化 ・アクセシブル遠隔医療への提案、ダウンストリーム;EMCの推進 ・脳情報プラットフォーム(勧告化完了)ユースケースなどの拡充 ・F.780.1(超高精細医療応用)改定へのアップストリーム ・F.780.1のコンフォーマンステストのアップストリーム ・超高精細内視鏡に関連した色基準に関するアップストリーム活動(テクニカルドキュメント化) ・Continua Guidelineのダウンストリーム ・The Common Pass標準化議論とアップストリーム 	<p>以下注釈: 「Continua(Continua Design Guidelines)」 Personal Connected Health Allianceによって発行されたガイドライン</p> <p>「Personal Connected Health Alliance(PCHAlliance)」 様々な健康・医療システムやサービスをシームレスに扱えることを目標とし、より質の高い「予防的な健康管理」と「慢性疾患の管理」、そして「高齢者の自立支援」の実現を目指す非営利団体</p> <p>「The Common Pass」 ・出入国のためにPCR検査結果などを共有する世界共通の電子証明書の仕様策定などを進めるスイスに設立された国際的な非営利組織。米ロックフェラー財団が資金提供し、世界経済フォーラムや国際文化会館などが運営を担う。米Googleのエンジニアや米IDEOのデザイナーなどもメンバーとして参加</p>	
国内外の標準化団体等の動向	ITU-TSG16 Q28では、日本から提案した脳情報プラットフォーム、超高精細内視鏡等の標準勧告化がなされた。また以前から続いているContinuaAllianceGuidelineの勧告化が継続されている。WHOとの共同標準であるH870が業界の関心と呼んでいる また新たにFG on AI for Healthが2018年度より開始され、その動向が注目される。ISOのHealth Informaticsと、Q28/16 はリエゾンを通じて情報共有しており、上記の活動とも関連する。WEFが推進するCOVID-19に対応したThe Common Passの標準化。アクセシブル遠隔医療はWHOが推進している。		

脳情報プラットフォーム



新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・Safe Listening勧告の改定、普及。アクセシブル遠隔医療の推進、普及 ・医療用UHD応用関連勧告化の推進 ・脳情報プラットフォーム関連勧告化。脳情報関連の新規テーマの検討 ・AIと保険医療標準化のウォッチ ・コロナ関連勧告の検討 			
関連する専門委員会または外部組織とその内容				
主な活動項目	概況指標	2025年度目標(当初計画時)	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	10月会合:7件	
	外部会合への参加・連携状況	・ITU-T SG21会合:10月	ITU-T SG21会合:10月参加 ITU-T WP2/21 RGM(参加予定)	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS: 回 TR: 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	マルチメディア応用専門委員会のセミナーに協力する	・TTCオンラインセミナー「Safe Listening 5:ずっといい音を聴いていたい」開催(7/18) ・TTC・MIC共催オンラインセミナー「見た目のとおりの色再現:高精細映像データ医療応用における測色要件(ITU-T Rec. F780.6)」開催(11/14)	
	記事投稿、講演会	TTCLレポート、ITUジャーナル等		

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・Safe Listening勧告の改定、普及。アクセシブル遠隔医療の推進、普及 ・医療用UHD応用関連勧告化の推進 ・脳情報プラットフォーム関連勧告化。脳情報関連の新規テーマの検討 ・AIと保険医療標準化のウォッチ ・アフターコロナ関連勧告の検討 			
新テーマ	Safe Listening、+ Safe Viewing			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	WHO、ILO、ISO(TC100、TC108)、Bluetooth SIG			
主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件程度	-	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG21会合:7月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS: 回 TR: 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	5月:Safe-listeningセミナー 7月:BCI/BMI(脳-マシンインタフェース)関連セミナー ・その他、マルチメディア応用関連のセミナーの機会があれば協力する		
	記事投稿、講演会	TTCアクセシブル、ITUジャーナル等		